

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679200099
法人名	有限会社 こぼれ陽
事業所名	グループホーム こぼれ陽
所在地	鹿児島県大島郡天城町鳥組783番地 (電話) 0997-85-4073
自己評価作成日	令和6年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事・排泄・睡眠・清潔に力を入れています。認知症の方には毎日の生活、1日の過ごし方(リズム)が大切です。食事・排泄・睡眠・清潔が生活の基本となります。食事はホームの畑で採れた野菜や果物、また近隣の知人などから頂いた自家製の食材も利用しています。排泄は自然な排泄ができるように発酵食品や水分摂取、運動などで排便を促す工夫をしています。快眠には食事・排泄は不可欠です。またしっかりと睡眠がとれる事により食欲も向上し排泄もリズムが出てきます。このリズムが徘徊等認知症問題行動抑制にも繋がります。清潔保持にはヨモギの葉を煎じたお湯を使用し毎朝全身の清拭をして老人性の乾燥肌、掻痒等を予防しています。入欲を拒否される方にも毎朝の清拭で清潔を維持できています。基本的な生活ができてこそ安心、安定した気持ちでホームでの生活が送れると考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は家族的な雰囲気の利用者個々人とかかわりの時間を持っている。毎朝、事業所の理念を管理者・職員・利用者で復唱し一日の生活やケアに取り組んでいる。
- ・地域の方からの差し入れや近隣の商店への買い物、散歩時の挨拶等、地域との交流が図られている。
- ・町との連携がとれていて、事業所の報告や相談を行っている。行政から依頼があれば、施設長・管理者は認知症サポーター養成講座の講師を行うこともあり協力体制ができている。
- ・重度化・終末期・看取りについての指針があり、24時間医療連携体制が出来ている。医師・本人・家族と話をしながら看取りも行っている。
- ・食事は専門の職員がいて個々に合わせた食事形態でおいしく完食している。寝たきりにせず、車いすで起こして可能な限り自力摂取してもらい介助支援を行っている。
- ・利用者は、毎朝ヨモギの葉を煎じたお湯で清拭を行っている。皮膚の乾燥や掻痒等の予防ができている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員と入居者全員で理念である「このいと小さきものの一人にしたことは、私にしたことである。」何らかの病により寝ることも食べることもできない程弱ってしまった人を支援する。この理念を入居者と共有し実践できるよう努めている。	理念はパンフレットに掲載、玄関に掲示している。毎朝、管理者・職員・利用者で理念の復唱を行っている。日々のケアの中でも話題になり全職員が理念を共有しながらのケアに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	入居者と共に買い物に行く商店や地域内のカトリック教会との交流、地域住民との交流行っている。	利用者は地域内の教会との交流がありミサに行ったりお茶を飲んだりしている。近くの商店に買い物に出かけたり、地域の方からの野菜の差し入れがあり、日常的に地域と交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	副施設長は、天城町地域包括ケア会議の会員として月1回のケア会議参加、また天城町社会福祉協議会評議委員を兼務しており各連携機関との連携を行い高齢者福祉に長年携わり続けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会での入居者家族からの要望や意見を聞き取り、行政からの指導や問い合わせ等からサービス向上に繋げている。	運営推進会議では、事業所の現状や利用者の状況を話している。家族からも食事の形態の要望があり職員と話をしながら取り組んでいる。行政からのアドバイス等も取り入れてサービスに活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長は、日頃より町役場担当等との意見交換を行っており、高齢者福祉に積極的に携わり認知症サポーター養成講座の講師等を務め協力関係を築いている。	運営推進会議に参加してもらっている。施設長・管理者は町の認知症サポーター養成講座の講師を頼まれたりしている。研修会に参加して日頃から町担当者と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	3か月ごとに身体拘束適正化検討会議を行い「身体拘束廃止の指針」等の周知確認を行い、心身及び言語も含めた身体拘束及び虐待の事実の有無を振り返り確認を行っている。	マニュアルがある。「身体拘束適正化検討会議」を3ヶ月毎に行っている。施設長からの身体拘束・虐待防止等のメールでの情報があり、職員で共有し確認している。言葉の拘束についても常に声を掛け合っている。昼夜施錠していない。今はいないが以前は外に出たい人には職員が見守りしながら一緒に出かけていた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化検討会議においても虐待に関する個々の職員の意見の聞き取りを行い、虐待防止への意識・考え方等の確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	この機会に勉強会を開き全職員への左記の再認識及び周知を深めたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には本人及び家族への重要事項の説明・個人情報使用の同意等文章の交付を行い、契約に至ります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にてご家族及び入居者の要望意見等を公表する機会を設けており、また随時ご家族と連絡を取り、その内容・改善点等を職員への周知を行っている。	本人とは暮らしの中で思いを聞いている。家族へは運営推進会議や毎月の面会時に話をしている。食事形態の要望や誕生祝を家でしたいので外出させたい等の希望があった。家族の意見を聞き職員とも話をして、出来る限り希望や要望に答えられるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員数も少ない事もあり日々の勤務の中での情報交換がされており、また、日誌での連絡等の閲覧も全職員が行える環境である。	日々の勤務の中で常に話をしている。利用者の急な医療機関受診の希望や寝たきりの利用者を車いすに移動しての食事介助等で褥瘡予防に努めている。勤務の中で情報交換をし日誌でも連絡している。職員の気付きや意見を管理者は常に聞きながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職場関係の透明性もあり職員個々の勤務実態を把握出来ており個々の職員に合わせた条件にて無理のない勤務体制作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等に参加し、OJTにおいても介護方法や対応等についての意見交換を日々行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員と日常業務等での相談や勉強会等でサービスの向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・ご家族・ケアマネージャー・かかりつけ医療機関・保健者等からの聞き取りを行い、また当施設の環境や現状を見学または体験入所等行っていただき双方の理解がなされるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者個々を尊重し、アセスメントを基に安心・安全にその人らしく日常の生活が過ごせるよう地域資源の把握活用にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援を求める人と支援を行う人は対等・共存関係である事の理解が得られるよう務める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援を必要とする本人を支えるご家族の思いを理解し共に考える事で信頼関係が築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・地域住民との連絡・面会は常時可能であり、また個人情報に配慮しながら当施設がそれを働きかける事も行っている。	家族との面会も出来ている。馴染みの美容師がカットを入浴前に行っている。職員と一緒に買い物や自宅訪問も行っている。馴染みの関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうし自由に共用スペースにて過ごし、仲たがいが見られる入居者どうしても時には笑い顔で話されたりする事も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	人と人とのつながりが伝わりやすい地域性であり、命日、お盆・お墓参り等同う事もあり適宜関わりあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時のアセスメントを初め、日々の言葉や動作・表情から思い及び意向を理解・推考し本人を中心に置きながら共同生活がなされるよう務める	日々の言葉や動作・表情から把握することもある。日常的に要望を紙に書いて伝える利用者もいる。困難な場合は表情や以前の雑談や家族からの情報、知人・医療関係者等からの情報を基に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを初め、入居後の雑談・思い出話やご家族からの情報（生活歴・背景等）知人・医療関係者への聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一般家庭の様に変化のあまりない安定した日常の中で少数緊密な関係にあり多くの時間を共に過ごす為、自然な形での相互の理解があり、職員一人一人の観察意見を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主に計画作成担当者が作成しているが、職員やご家族・各関係者の情報及び提案など取り入れて介護計画等の作成に努めている。	モニタリングは6ヶ月で行っているが状況に応じて変わることもある。見直しについては状態変化がなければ1年、変化がある場合は随時見直しを行っている。職員の意見を聞きながら本人・家族とも相談し介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への各職員の介護記録及び申し送り等は全職員閲覧可能であり、また口頭での情報交換も頻繁になされており介護実践や介護計画作成に活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々を尊重し、アセスメントを基に安心・安全にその人らしく日常の生活が過ごせるよう地域資源の把握活用に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係医療機関・行政機関・地域住民及び区長等との協働を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時での重要事項説明にて本人及びご家族への確認の下に、連携医療機関の定期訪問診療（月1回）及び定期の血液検査・予防接種等の実施を行ない、また緊急時等24時間の連携体制を整えている。	利用開始時に連携医療機関の定期訪問診療を受ける旨を説明している。他科受診は家族にお願いしているが無理な時は職員が付き添っている。定期検査や予防接種もお願いしている。緊急時、24時間医療連携体制も出来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に居住する非常勤看護師を配置しており日常的に全職員との情報の共有を行っている。入居者の体調不良時には連携医療機関への連絡相談を行い迅速に訪問診療の手配を行っている。また当施設職員への医療的ケアの指導・助言を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関及び家族との情報交換会を密に行っている。地域性もあり知人も多い為、病院関係者との連携が図れている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者及びご家族への延命治療・見取りについての説明を行い意向の確認を適時行うようにしている。また連携医療機関との情報共有を行い、運営推進会議にて検討を行っている。	重度化・終末期・看取りの指針がある。契約時にも家族に説明を行っている。状態変化に応じて医師から説明をしてもらい、職員・家族と情報の共有をしながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調急変時の初期対応の周知及び避難訓練の定期的な実施は行っているが、応急手当等の訓練は行っておらず今後勉強会等を行いたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器及びスプリンクラーの設置、定期の消防設備等点検を実施している。定期の避難訓練を行い避難場所の確認及び地域区長と協力体制を整えている。また火災時の物資の備蓄を確保し、入居者家族への協力依頼等を行っている。	年2回消防署が来ての訓練と自主訓練を火災や地震・津波、昼夜間想定で実施し、町の一斉訓練時に行っている。地域の区長との協力体制が出来ていて家族への協力依頼も行っている。防災センターが近くに出来て避難場所になっている。備蓄は玄関横に水やレトルト食品・缶詰等を1ヶ月分を準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の思いを理解または推察し、本人が必要な支援を思いやりをもって行う。	名前はさん付けで呼んでいる。入室時は声をかけている。車いすの利用者が多いので入浴時やトイレ誘導時の声掛けや対応には気を配っている。プライバシーへの配慮をしながらケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々への支援の見極めを行い様々なコミュニケーション方法を取り日常生活行為を本人にとって正善に、安心して過ごせるよう声掛けを行い傾聴するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れの中で、業務と入居者個々人のペースとのバランスを取りながら可能な限りパーソンセンタードケアの実践に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容等の判断意識がある方には服を選んでいただいたり、鏡の前での整容を促している。そういった意識が見られない方には本人に持参の服等を職員が推察を行い見出しなみを整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方にはテーブル拭きや野菜の皮むき・片付け等職員と雑談しながら取り組んでいただいている。個々に合わせた食事形態にて提供し、可能な限り本人での自力摂取を行っている。	食事専門の職員が献立を作成し調理している。出来る利用者には台拭き・野菜の皮むき・片付け等を職員と一緒にやっている。食事形態も利用者に応じて行い、出来る限り自力摂取してもらっている。行事食・誕生日やおせち料理は一緒に作っている。食事を楽しむ事のできる支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全職入居者1日2～3食を概ね完食し2食となる場合には主治医より処方されている栄養補助食品を適量摂取している。また水分摂取は常に注意しており声掛けや介助にて必要量摂取に努めている。年2回実施する血液検査での栄養状態値等に問題所見無し。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員勉強会にて口腔ケアを学び各入居者1日2回の実施を行っている。また必要時には連携歯科医院の訪問診療を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	起床後や食後等の声掛け及び個々人の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行い、行為及び動作に応じて声掛け・見守り・介助を行っている。	排泄パターンを把握し、起床時や食事前後のトイレ誘導を行っている。出来るだけ失敗がないように声掛け・介助で行っている。排便チェックも日誌を使って行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の献立や発酵食品を日常的に考慮し、また水分摂取量を常に意識している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の摂取はあるが外気温や本人の希望・体調及び意思を確認して柔軟に対応している。	皮膚の清潔と乾燥・掻痒予防の為、毎朝ヨモギの葉を煎じたお湯で清拭を行っている。入浴日は決めているが外気温や利用者のその日の体調・希望で入浴している。車椅子の方はシャワーチェアを使ってシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境としては静か立地での一般住宅であり高齢者にも馴染みやすく居間や食堂のソファで居眠りされたり思い思いに落ち着いて過ごせるよう声掛け及び非言語コミュニケーションを心掛けている。就寝時も入居者全員が静かに良眠されている様子がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での薬の作用について情報共有を行っており、また常時確認できるよう各入居者の服薬説明書を閲覧できるようにしている。服薬の声掛けや介助は各職員に声掛け確認後に実施記録している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望やご家族からの聞き取りにて家事を協力していただいたり、好きな音楽を聴いたりテレビ鑑賞をお茶飲み雑談しながら過ごしたり、天気の良い日には散歩あいたり気分転換が図れる様努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望に応じて散歩や近隣のスーパーへの買い物等職員と共に行っている。また適時気分転換に散歩等を行っている。	日常的には近隣の散歩をしている。買い物に出かけたり、花見やドライブにも出かけている。他の施設に入所中の夫に会いに職員と行ったり、コロナでなかなか面会出来なかったが近日中に面会できると喜ばれていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人及びご家族の要望の下に自己管理なされる方にはご家族等と相談し管理していただき、個々に応じて適切に行っている。自己管理困難な場合には社会福祉協議会との協力にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご家族の電話及び本人からも自由に行えるようにしており、またご家族との業務連絡を行う際には本人と繋げるよう声掛け等行っている。手紙の代筆等に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型の施設である為、家庭的な雰囲気・生活館があり自然の光や風、季節感が感じられます。食堂からは季節の花々を眺める事がで静かに過ごせる環境である。	普通の民家を建て増ししての施設であるが、リビングにはテーブルと椅子・テレビがありソファもある。玄関には季節の花が活けてあり、大きな窓から光が入り換気をしている。温度調節をしながら居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の他、入居者及び職員達と過ごせる共用空間がありそれぞれが自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人及びご家族の要望に応じ、箆笥・仏壇・布団等持ち込んでいただき馴染みある空間づくりを行い安心そて過ごせるよう努めている。	居室は畳の部屋にベッドが置かれ、寝具や椅子・仏壇・写真・暖房器具もある。事業所が準備したアルバムが置いてあり、家族と一緒に見たり、本人が居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間時の排泄不安解消の為のポータブルトイレの設置や各部屋の入口に入居者名（表札）の設置、非常口・トイレの案内掲示等を行っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない